

看護部長室だより

令和1年11月26日

今年も残すところあとわずかです。相次ぐ台風上陸で全国的には大きな災害があった年でしたが、おかげさまで上伊那は被害も少なくありがたいことだと思います。しかし長野市千曲川周辺地域では今もなお不便な生活を強いられる皆さんが多くいらっしゃり、心を痛めています。同じ県内にいても役に立たない自分の非力さに歯がゆい思いしているのは私だけではないのではないのでしょうか。今回の台風19号の被害にあたり、10/16に長野県看護協会から災害支援ナースの派遣要請がありました。当院からは9名の災害支援ナースの方の手上げが有り、うち3名の方の派遣が実施されました。派遣先は3名とも須坂市北部体育館 避難所で派遣期間は10/21～10/24(春日さん) 11/4～11/7(宮入さん) 11/7～11/10(太田さん)でした。この場をお借りして3名の方の活動報告をさせていただきます。

主な活動内容

春日さん：保健師と共に継続的な健康チェック、相談、環境整備
宮入さん：避難者の健康相談 環境整備（掃除・モップがけ・温度、室温調整）
太田さん：避難所となっていた体育館の換気・温湿度調整・特に水回りの清掃など環境調整
被災者の方の体調管理、持病の観察、感冒等の感染症チェック、外傷ケア

活動を通して強く感じたこと

春日さん：被災した方にどのように言葉をかければ良いのか、言葉がけの難しさを痛感した。
宮入さん：環境整備の重要性、言葉のかけ方・使い方、他職種の職員が入るため関係性、距離感の上手な取り方
太田さん：被害者は自宅の片付け、仕事、新居の準備が重なり、過緊張状態で生活しておられたので、たとえ目に見える疾病がなくても声をおかけしてお話を聞こうと思った。

この経験で得たもの

春日さん：関わり方や、言葉がけの難しさ。病院はDrや周りのスタッフに相談できるが、自分で判断を強いられる場面もあり、その力が無いことを感じた。
宮入さん：基本的な看護は病院で行ってるものと変わらない。災害派遣された時期でどのような被災者の感情、環境の変化があるのか想像すること。他職員と話し共有すること、共に実践し継続すること。
太田さん：集団生活であることから、感染症の発生を抑制することが重要。そのための環境整備は看護師が真っ先に注目すべき看護

当院のスタッフへ伝えたいこと

春日さん：貴重な経験ありがとうございました。同じ県内での災害なので様々な形で是非被災地の応援をしていきたいです。ボランティアにも参加していただければと思います
宮入さん：今回の災害は局所的であったものの、被災された方たちの被害は甚大です。自分自身がこの派遣がきっかけになり災害への意識が深まりました。災害看護への派遣は人数に制限がありますが、現在も長野市ではボランティアを募集しています。南信地区は災害を多く経験していない地区であり、実際に水害に対し触れる機会を持った方が良いと感じました。
太田さん：日頃後回しになりがちな環境整備は決して優先度の低い看護ではありません。災害支援ナースの皆さんは是非被災者看護の現場に赴いて現実を体験して欲しいと思います。

3名の皆さんお疲れさまでした。この経験を看護部全体で共有して、昭和病院の看護に活かしていきたいと思っています。また留守の間病棟を守って下さったスタッフの皆さんもありがとうございました。

インフルエンザが流行する季節になってきました。体調に気を付けて一年の締めくくりしていきましょう。

那須野 滝脇 真木